



↑2016年5月21日、北海道で一番長い平和大行進。4回目の休憩中、札幌市内で。

一歩でも
二歩でも
ごいっしょに！
国民平和大行進
2016年

しずおか平和の風

No.13
2016年5月22日
発行
静岡市
平和委員会
静岡市葵区鷹匠
1-5-8
TEL 253-1854
FAX 252-0785
メール
Peace-City
@mail.707.to

平和行進がやってきました。5月6日、東京夢の島を出発した2016年平和行進は、19日に静岡県に入りました。今年は静岡県平和委員会から、小林和江さん、松永洋子さんの二人が参加しています。昨年、東京

広島を歩き貫いた松永洋子さん、今年は静岡市平和委員会の一員として、北海道東京間を元気に歩いています。ぜひ声援と激励の力

9カ国が「核兵器禁止条約」の締結を求めたのに真っ向から反対し、核廃絶の流れにブレーキをかける役割を果たしています。国連に加盟する圧倒的多数の国とともに、私たち平和委員会の会員は、草の根からの核兵器廃絶の声を揚げ続けましょう。一歩でも、二歩でも、ごいっしょに！

オバマ大統領が広島を訪れます。安倍首相は「核兵器をなくすため、大統領と全力を尽くしたい」と語っています。しかしその裏で、シユネーブで開かれている核軍縮の進展を目指す国連の作業部会では、日本の佐野軍縮大使はメキシコなど

戦争法廃止2000万署名6月30日まで延長
総がかり行動実行委員会が呼び掛けた「戦争法廃止を求める統一署名」は、1200万筆を超え、静岡県で183,757筆集計されました。静岡市平和委員会も他団体と協力し、更に広げてゆくことを理事会で確認しました。

つむじ風 兵士は何を守って死んだのか？

昨年の夏、瀬戸内寂聴さんと美輪明宏さんの対談が放映された。折から戦争法が大きな問題となっていた。「どんなことがあっても戦争をやってはいけない」と語り合う二人だったが、その中で、少年だった美輪さんの語る戦争体験が強く心に残った。

出征兵士の母親が、列車が出る寸前になって汽車のデッキに立っている息子の足にしがみつき、「どんなことがあっても死ぬなよ」と叫んだ。それを見た憲兵に、母親は引きずり倒され鉄柱にひたいをぶつけた。その光景を見ながら死地に赴いていった兵士の顔が忘れられないという。

「戦地で死んだ息子が最後に見た母親が、憲兵に突き飛ばされて血だらけになった姿。情けないじゃありませんか」と、涙をこらえながら語った美輪さん。

先の戦争の本質を表しているエピソードだと思う。母親を守らずして誰を守るのか？ 何を守るのか？
合戸 政治

憲法記念日の5月3日、「明日を決めるのは私たち！平和といのち・人権を！」5・3静岡総がかり行動「のスローガンを掲げ、静岡では第3弾となる総がかり行動が行われ、900人の市民が集まりました。

戦争法廃止！ 総がかり行動第3弾

今度の選挙で自公政権を政権の座から引きずり下ろすため、「野党は共闘！選挙を考へる市民の集い」が開かれました。事務局長 二輪矩正

憲法記念日の5月3日、「明日を決めるのは私たち！平和といのち・人権を！」5・3静岡総がかり行動「のスローガンを掲げ、静岡では第3弾となる総がかり行動が行われ、900人の市民が集まりました。午後には、労政会館で静岡県憲法会議主催の「憲法を考へる市民の集い」が開かれました。

15年安保に思う—3つの安保— 佐藤 博明

戦後70年、私は3つの安保を経験した。学生時代に60年安保を、若い現職の頃70年安保を、そして昨年、15年安保である。60年安保では、大学は殆ど休校状態、連日、国会周辺や銀座、青山の大通は「安保反対！」「岸内閣倒せ！」の集会や激しい「過まぎデモ」で埋め尽くされた。昨年9月14日、国会前集会で55年前とは違つ光景を目にした。違憲のみの「戦争法」に抗議する、SEALDSの若者や若いママさんたちの、静かだが憤怒にみちた強い眼差しと、パフオーマンズである。《可決》後も、人々は抗議の輪を解こうとしない。そこには怒りはあっても、挫折も諦めもない。安倍政権はいま、民主主義を深く学び、生きた《教材》を提供している。私たちはここで、またとない歴史のダイナミズムに立ち会う時を生きているのかと思ふ。



国のためくと嘘を言ひな聖五月

— 篠原 三郎 —

↑2016年5月22日・朝日俳壇より

体験語り

松永 一男さん (90歳)

羽鳥在住
“寸足らず”と — 豊川海軍工廠

私は大正14年5月23日、安西三組町に生まれ、本通りの親方について漆職人になった。漆が早く乾くと縮んでうまくない。湿度が高いと乾かない。

漆がなくなり親方と一緒に塩竈神社(宮城)、平安神宮(京都)と渡り歩いた。静岡へ帰ってきたが仕事が無い。勲章箱(日支事変が始まり)を塗る仕事をした。中国から輸入したもので質がよくなかった。

青年学校(田町小学校)へも行ったが、軍事訓練ばかり、米は当時自分についてまわる。(配給制)へ行くにも住所

仕事もそのために勝手に変えられない。

背は低く、仕事に就いていたので、徴用はくるわけがない、と気楽に考えていたところ昭和17年(17歳)4月封書が届いた。あけてびっくり「徴用ヲ命ズ」。

4月29日(当時天皇誕生日)身体検査。イヤタナー、イヤタナーと思っていたが、「異常ナシ」の結果。駒形神社で「武運長久」を祈り、時の市長より3円の饒別金をもらった。

5月2日、「豊川海軍工廠二勤メルコトヲ命ズ。豊川工廠は60万坪、建設費8億円(当時)私は100円札も見ただこともなかった。賃金は50銭、労働者6万人、半分は女性。朝鮮人、囚人もいた。一年に一回、作業服の配給があった。「大きくてしょうがない」と言ったら、「バカヤロー。テメエノ体ヲ服ニ合ワセロー」と。びっくりしちやうた。

豊橋駅から工廠行きの電車に乗ると、そのまま構内へ。周りにはコンクリートで囲まれ、外からは見えない。門は三方所しかない。志願者は手当がよい。徴用工は寮に入り、待遇は悪い。17歳の小僧も寮住まい。寮内はすべて軍隊式。まずい芋にも助けられた。人間というものは腹が減るとなんでも食っちゃうものだ。

運よく光学部へ配属。ここはプレスで手をこらわるといふこととはなかった。双眼鏡、機関銃に使うレンズを磨く。レンズはドイツから輸入。のちに吉原(鈴川)に工場が疎開し、一時間半かけて通った。

オシヤカにするこひつぱたかれた。「コンヤロー、オシヤカニヤガッテ、ドウスルンダ」工場の中は、泥棒が多く、まるでしよつがなかった。

19歳で徴兵検査。淋病にかかっている、スリッパでたたかれていた。5尺足らずの身長だったので、「寸足らず」と言われたが、第3内種で合格。周りの工員までもが「寸足らず」と私をばかにした。こうして今みなさんにお話できること、幸せです。

昭和20年、毎夜米軍の空襲。夜眠れないので仕事を休むとブツタタカレタ。そういう状況でも、「日本ハ勝ツテイル」と思っていた。

6・20の静岡大空襲。この日、昼勤で家で寝ていた。十二間通りに火の手が上がる。田町あたりは畑が多く、引いては大八車が畑でひっくり返る。「魚食」のころに落ちた米軍機には人形のような白

い兵が乗っていた。河原に落ちた米機の兵に群衆が石を投げたり、小便をひっかけたりしていた。田町小学校で母、弟たちに出会えた。

昭和20年8月15日、天皇の言葉が聞き、「勝った。勝った。」と。あこで、みんな泣いた。レンズを磨くのに使うアルコールを飲んだ、若者まで。磨いたレンズを「アメ公にこられてたまるか」じただき割った。

一時金で田もひいて退職。

◇体験を聞いて◇ ここでは多くの県民が亡くなっています。「戦争って何だ」に対する答えが多く言葉で語られています。それを形にすることが私たちが継ぐことなのではないでしょうか。(鈴木正)



↑平成28年4月17日(日)アカデ美和で戦争体験を語る松永一男さん

読者の声

軍国少年の

戦争記憶

中村 貞一

この空襲で兵隊が戦死したこの噂は聞かない。

学校は焼け残ったが軍隊の作業場となり、毎日焼け跡の片付けと農家への勤勞奉仕だった。清水の空襲で焼け残り缶詰を拾い開缶すると、路(ふき)を茹でた様な物だった。煮ても焼いてもフヤッとし「世の中にこんな不味い食へ物が有ったのか」と呆れるばかりだったが、でも食べる物が無く数日間アスハラガス(戦後知った)が食卓の主役になり閉口した。

8月15日、終戦のラジオ放送で大人達が「戦争は負けた。男は金玉を抜かれ、女は鬼畜米英の妾になる」と大騒ぎ。

狂気の軍国主義教育には「平和」を思考する選択肢は無く、軍国少年を大量生産した恐ろしさを痛感する。再び非人間的な戦争を起こしてはならぬと思った。現在も青少年達がテロの自爆要員として死んでゆく報道に、かつての少年期をタブラせ心を痛める毎日である。